

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.67 2013.3.1



福まち通信

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-811-3831
URL <http://kikusui-net.jp>



大雪像 市民に親しまれる貴重な遺構 豊平館

大通5丁目の環境広場では、環境プラザによる「環境〇×クイズ」が雪まつり期間中に3回開催され、市民や道内外の観光客の皆さんがクイズに参加して環境保護の大切さを改めて理解していました。

同広場では、北海道開拓史が洋風ホテルとして建築をし、昭和39年には、国の重要指定文化財に指定されました、「豊平館」が大雪像となりました。なお、同館は平成24年4月1日から耐震補強やバリアフリーなどを含む保存修理工事が行われおり、平成28年4月頃にリニューアルオープンの予定です。

今年の雪まつりは、後半3連休と重なり、道内外から大勢の観光客が訪れました。特に、中華圏の長期休暇に当たる春節（旧正月）と一部重なり、台湾や香港、そしてタイ等のアジア諸国から多数の





観光客が訪れました。

海外の観光客に歓迎の心を含めて、大氷像の「中正記念堂」(台湾)・大雪像の「ワット・ベンチャマボピット」(大理石寺院)でお迎えしました。その他には、伊勢神宮の社殿を建て替える「式年遷宮(しきねんせんぐう)」を迎える「伊勢神宮への旅」・4月開場予定の「歌舞伎座」・「ちびまる子ちゃん in Hawaii 'i」(昨年10月のハワイアン航空の新千歳空港-ホノルル直行便就航記念)の大雪像が見事な仕上がりでした。

第2回菊水地区福まち研修会開催



2月22日(金)午後1時から菊水地区会館の2階ホールにおいて「第2回菊水地区福まち研修会」が開催されました。研修会のテーマは、「65歳以上の世帯名簿の取り扱いと防災福祉マップの活用について」です。講師は、札幌市白石区社会協議会の佐藤朋紘事務局次長です。

当日は、福まち推進員や民生委員等の64名の方々が参加し熱心に受講しました。

1) 防災福祉マップの活用について

福祉マップづくりの効果は、次のようなことが考えられます。

①対象世帯の明確化—マップに地域の見守り活動の必要な世帯が一目で分かるような工夫をする。例えば、赤のシールは見守り対象者とし、次に青シールは推進員とするなどです。なお、シールの色は、全市で統一されているわけ değildir。②地区内の全体像の把握—班長さんが、地域に詳しくない方でも高齢者世帯が何世帯あるのかが視覚化され捉えることができる。札幌市は、平成22年度の国勢調査によると若年層から高齢層を含めて単身世帯件数が高い状況です。昨年、1月、近くの地域で姉妹の孤立死が起きましたので、民生委員だけが見守り活動するのではなく、民生委員・町内会・福まちの三者で見守り活動することによって、一人でも多くの孤立している対象者を救えることもできます。③見守り・訪問活動の充実—このマップを見ると「見守り対象者件数」が分かるので、福祉推進員の少ない地域が分かり補充ができます。④災害時の対応などにも活用—日頃の訪問活動ができていれば、災害時に被災者を救助する強い力となります。⑤マップづくりを通して関係機関との相互理解、ネットワークの構築—福まち・民生委員・推進員との情報を共有していると、いち早く見守り活動を必要としている対象者を発見することができ、その結果、相互ネットワークの構築が出来る効果があります。⑥マップづくりを通して福まち活動への参加促進—マップづくりを通じて、見守り対象世帯と近所の住民と親しい交流がある場合には、見守り活動への参加してもらうことを呼びかける。

福祉マップ作成時の負担軽減のポイント

見守り対象世帯の情報提供は、地区福まちや福祉推進員から情報を得る必要があります。

すでに手元にある、合法的な情報の「65歳以上の世帯名簿」の活用があります。この「65歳以上の世帯名簿」を使用するには、「世帯名簿の取扱いの研修」を受講した人が条件です。マップ作成予定の単位町内会は、区社協へ研修会の依頼申込書を提出すると講師職員が派遣されます。

見守り等の対象範囲を、65歳以上とすると作業量が膨大となりますので、例えば、75歳以上にするなど無理のない範囲に限定する方法もあります。

訪問対象者からマップの趣旨の理解を得て、マップに記載する旨の同意を得ることも必要です。

2) 65歳以上の世帯名簿の取り扱いについて

この「65歳以上の世帯名簿」とは、札幌市より、福まち活動の円滑な推進及び区社協が実施する事業の効果的な実施を目的に提供される名簿です。市内に居住されている65歳以上で構成されている住民基本台帳上の世帯情報です。

この名簿の情報提供の当たっては、札幌市と白石区社協とが覚書を締結しており、福まちの金庫で保管し、白石区社協と福まちが共同利用しています。

個人情報保護法の理念は、個人情報を保有する事業者は、「5000人(件)を超える個人情報をデータベース化して、その事業活動に利用している者」は、きちんと情報を管理すること。と規定されております。福まちは、市内で5000人を超える個人情報活動の対象者としてデータベース化していないので、個人情報保護法で規定する事業者には該当しません。従って、「65歳以上の世帯名簿」は、個人情報保護法は適用されません。

ただし、「65歳以上の世帯名簿」に適用される法令は、①札幌市個人情報保護条例—個人情報扱おう事業者すべてに適用されます。②札幌市65歳以上の世帯名簿取扱要領—【趣旨】福祉のまち推進事業の推進のために提供する名簿です。この名簿は、社会福祉関連事業の実施・ボランティア活動の振興・地域住民の日常的な支え合い活動推進等に使用でき、その際、地区福まち推進センターの活動者は、管理利用等の研修を受講することになっております。

この研修会を受講して、大事な個人情報を取扱う自覚を持って、福まち活動を行うことが重要であると思いました。



第15回菊水地区雪中運動会開催

2月9日(土) 10時、札幌市立東橋小学校のグラウンドにおいて、第15回菊水地区雪中運動会が開催されました。主催は、菊水地区青少年育成委員会です。共催は、菊水地区まちづくりネットワーク会議・PTA4校連絡協議会・おやじの会・菊水地区民生児童委員協議会・白石区子育て支援係・菊水やよい児童会館の各団体です。



参加人数は、菊水地区の子ども達210人、大人100人(役員・ボランティア含む)の合計310名です。

開会式は、主催者を代表して菊水地区青少年育成会の本田会長の挨拶の後、当番校の札幌市立東橋小学校の佐藤校長から祝辞がありました。

競技を開始する前に、大会運営ボランティアの札幌市立幌東中学校生徒会7名の指導により準備体操を行いました。

第1競技「おきあがってGO」は、スタートラインに6名の子ども達がうつ伏せになり、スタートの合図があるとゴールに向け身体をひねり素早く立ち上がり、ゴールに全力で駆け出して順位を決定します。子ども達は、寒い中、元気よく駆け出していました。お父さんやお母さんからの熱い声援がありました。





第2競技「ちびっこ集まれヨーイドン」は、スタートの合図で走りだして、雪の上の置いてあるボールを拾い、ゴールに駆け出して順位を決定します。子ども達は、ボールを上手く拾い、ゴールまで駆け出していました。

第3競技「アンパンマンと一緒に走ろう」は、5名の子ども達がスタートの合図があると、走りだして雪の上に置いてあるカードに書かれてある、キャラクターのお面を被ったボランティアと手を繋いでゴールして順位を決定します。幼児の子ども達は、楽しそうに競技に参加していました。



第4競技「ざぶざぶとりゲーム」は、ダンボール座布団を円状に並べた横に子ども達が立ち、音楽がなると歩きだし、音楽が止まると近くにあるダンボール座布団に素早く座ります。その後、ダンボール座布団の数を減らし、勝者が決まるまで繰り返します。子ども達は、歩く速度に変化をつけるなどの駆け引きがあり、最後まで熱戦が続きました。子ども達は、気を抜かず最後まで頑張りました。



第5競技「ずばり当てましょう」は、笛の合図で予想した数字の旗の場所へ移動し、立ち止まった場所で、ボランティアがサイコロを転がします。そのサイコロの目と予想した数字が一致すると次に進めます。子ども達は、サイコロの目の数字と予想が当たると大いに盛り上がっていました。



男子小学生の少年は、「おきあがって GO」に参加して、3位になりました。とても楽しかった。来年も参加したいと元気に話していました。



おやじの会の皆さんは、恒例のイグルー作りをしました。子ども達は、イグルーの中で楽しそうに会話をしていました。

ボランティアスタッフの調理した豚汁やココアが参加者全員に振舞われました。子ども達は、美味しいと言いながら豚汁を食べていました。

閉会式は、来年度の当番校である札幌市立上白石小学校 PTA 会長からの挨拶の後、閉会となりました。雪中運動会は、第15回の開催回数を重ね地域に根ざした冬の風物詩となりました。

参加者の皆さん、お疲れ様でした。来年度の雪中運動会も多数の参加をお待ちしております。

編集後記

今年のさっぽろ雪まつりの期間中の天気は、雪の日が多かったように思います。寒さも例年以上でした。雪まつりは、雪像の安全対策の強化で無事に終了しました。観客数は、約236万人が来場されました。今月号は、さっぽろ雪まつり、第15回菊水地区雪中運動会、第2回福まち研修会の記事を中心に編集しました。今回の福まち研修会を受講し高齢者等の見守り活動は、地域を守る大切なボランティア活動であることを改めて再確認しました。

(品川)